児童が非認知能力の「よさ」を認識し、非認知能力を発揮している児童を見取る教員の視座を養う授業について

400 字戯曲創作（第１回）学習指導案

枚方市立西長尾小学校
校長　武田正道

(1)目　標

「創作戯曲」を完成させ、戯曲の特徴や、表現のおもしろさを味わわせるなかで、他者理解力の土台となる力(非認知能力)を育むとともに、児童の非認知能力を見取る教員の視座を養う。

(2)指導観

令和３年１月２６日の中央教育審議会答申には、急激に変化する時代の中で、子どもたちに育むべき資質・能力を、次のように示している。(「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、共同的な学びの実現～　令和 3 年 1 月 26 日、中央教育審議会答申より)

> 一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

これらの資質・能力の本質的な骨格となるものが、「非認知能力」である。岡山大学准教授の中山芳一氏は、これらの力を下の３つに分類している。

・自己と向き合う力　……柔軟性、謙虚さ、忍耐力、目標への情熱
・他者と協働するための力　……思いやり、他人への敬意、社交性
・自己を高める力　……自信、楽観性、自尊感情
（出典：中山芳一著『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』2018 年、東京書籍）

本校ではこれを参考に、非認知能力を下記のように解釈整理した。

> ・自己と向き合う力（柔軟性、謙虚さ、ねばり強さ〔忍耐力〕、目標への熱意）
> ・他者とつながる力（思いやり、他者への敬意、協調性）
> ・自己を高める力（自信、楽観性〔挑戦する意思〕、創造性、自尊感情、自己肯定感）

これらの力を伸ばす意思を育む取り組みとして、創作劇活動に取り組むこととした。
創作劇活動により、育まれる非認知能力は上記３項目をすべて網羅するものととらえることができ、しかも楽しく継続的に取り組めるものとして、組織全体で効果の高さを実証したいと考えた。
＜参考＞
近年、全国各地で演劇を活用した教育が研究実践されるようになってきているが、その中で主流となっているのが、教室のなかで出来る簡単なコミュニケーションゲームや、スキットと呼ばれる短い台本を使って子どもたちが展開を考えていくワークショップ形式のものである。
今回実施する「400 字戯曲創作」は、それらに準ずるもので、子どもたち自身が、自分の力で短い台本を創作する取り組みとなっている。

(3)教材観

○「400 字戯曲創作」について
自分の気持ちを主体的に伝えられる力を持つことは、子どもの自信を育てるだけでなく、子ど

もたちどうしのコミュニケーションの質が高くなることに必ずつながっていく。
　子ども自身が創作物の作者になることで、言葉によって楽しく交流できる教育活動が、「400 字戯曲創作」（台詞だけの台本づくり）である。継続して取り組むことで、自分の表現に自信を育み、漢方薬のように、子どもの振舞いや言動に「他人への配慮」が込められるようになることを期待している。

○中学年（小学第３・４学年）における効果について
　中学年は、脳の前頭葉が発達し始め、他者意識への視点が育ち、他者とのかかわりのあり方の基礎を、実生活の中で磨き始める時期である。このころになると、これまでの成功体験に基づいたコミュニケーションに関する自信を裏付けにした行動を個々人が行うようになる。
　それらの行動の中で、価値観や方法の違いから人間関係上のトラブルが自ずと生起する。そのような経験を重ねる中でより良い人間関係のあり方を身につけていくことができると考えられる。
　したがって、この時期に意図的にコミュニケーション能力を鍛える体験をすることは、他者意識を育むためには大変に効果的であると考えている。その具体的な方法として、話し言葉のコミュニケーションを自ら対話的に創り、発表しあうといった 400 字戯曲創作指導が効果を上げやすいと考えている。本指導を実施する際には、１・２年時に育まれた「積極的なコミュニケーションの良さという認識をさらに強めるものとして言葉が存在する」こと、また、「言葉は、表現の豊かさを表出するための価値の高いもの」としての認識をさせておきたい。このような「話し言葉」によるコミュニケーションに関する自信へと導いていくことを意識して指導することが大切である。

(4)指導計画

<table>
<tr><th>時</th><th>学　習　内　容</th><th>非認知能力への働きかけ
（意識させ、気づかせたい非認知能力）</th></tr>
<tr><td>1</td><td>400字戯曲創作</td><td>自己と向き合う力（ねばりづよさ）
（柔軟性）</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="2">400字戯曲創作
交流・発表及び鑑賞</td><td rowspan="2">他者とつながる力（他者への敬意）
自己を高める力（自己肯定感・自信）
（楽観性〔挑戦する意思〕）</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
</table>

(5)展　開
第１時

時間	学習内容・学習活動 予想される児童(生徒)の反応	指導上の留意点（◎） 理解のための支援(☆)、促し(・)	非認知能力への働きかけ
7分 導入	**めあて：ねばり強く取り組み、小さな物語の台本を完成させよう**		・めあての提示時に、取り組みの中で、**「ねばりづよさ」**を意識させるように声掛けをする
	1）物語について学んだことを振り返る **・出来事の流れの中で中心人物が変容する(山場がある)。** ・『かさこじぞう』『モチモチの木』『お手紙』など（下の学年で学んだ作品に触れる）	◎これまで国語で学んできた物語文の学習を振り返らせる ・物語ってどのようなものかな？ ・印象に残っている物語は？ ・山場＝**頭の中の絵が大きく変わるところ**	
	2）短い台本をつくることを確認する	◎本日行うことを確認する ・今日はみなさんに物語・演劇の台本を作ってもらいます(戯曲といいます)	
	3）作品例を聞き、これから作る台本の量や書き方をイメージする ・きょうだいでおやつを分け合う…低中高 ・黒板に穴が開いていて不思議な体験をした…低中高 ・学校に忘れた宿題を先生がもってきてくれた…中高	◎作品例を範読　（資料1･2･3） ◎作品例読後、作品に表現されている物語の要素について触れる ・**どんなお話し**でしたか？ ・聴いていて、書き方などで**気づいたこと**を教えてください ・これは**いつ**のできごとかな？ ・場所は**どこ**かな？ ・**どんな人か**な？	・範読は**絵が浮かぶように意識**して読む
	・台詞だけで頭の中に絵が浮かんだ。 **・説明がないけどわかった。** ・主人公の気持ちが○○○のように変わった	◎戯曲表現の工夫による面白さを確認する ・**台詞だけでこんなに絵が浮かぶんだね。言葉って面白いね** ・自分が作る世界に一つだけの物語です。どんなお話しができるのか、とても楽しみです	・読む人や聞く人に**伝える工夫をしっかり込めて(他者への敬意)**書かれていることを確認し、創る過程で、**「相手に伝わるかどうかをしっかり考えて書く」ことが大切**であることを伝える

25分 展 開 1	1）台本を書く際の原稿用紙の使い方を知る	◎原稿用紙の使い方を説明する ・例文を黒板に提示 ・書き方のルールを説明 ① 登場人物は2人。台詞の上に書く名前は一文字 ② 起承転結を意識(主人公が変容する) ③ 台詞だけで伝わるように工夫（地の文や説明書き[ト書き]は書かない） ④ 擬音なども書かず、台詞の中で音を感じさせる表現を工夫	・質問の質・態度に着目 ・非認知能力を見立てる視点 **※自己を高める力** **・挑戦する意思**
	2）原稿用紙に書き始める ・書きながら、湧いた疑問を指導者に質問する ・書き進めるなかで、指導者から助言を得、自身の表現に工夫を重ねていく 3）完成したら何度も読み返し、他の人に伝わるかどうか教員へ提出し、確認を受ける（完成したら２枚目〈裏面〉に挑戦する）	◎原稿用紙を配付する ◎思い浮かばない場合は、日常生活をふり返り、自分が変化した場面を思い出させる ※心のひと言シートの活用 ・変化したきっかけとなった言葉に注目させる（その言葉が山場となる） ◎児童からの書き方の質問対応 ・考え方を伝えるポイント ① 聴き手が登場人物の動きや気持ちをイメージできるか ② 登場人物は人間でなくてもよいが人のように考え、感じ、話す ③ 時・場・人物がわかるように工夫する ☆この段階でストーリーを地の文で書いている児童がいたら、それを台本にしてみようと伝えて助言し、別の原稿用紙に書かせる ☆書けない児童がいる場合、頭の中にどんな絵が浮かんでいるかを話させて、冒頭の対話だけ支援する例…「A　あれ？これ何？」「B　〇〇、あんた、忘れたやろ？」など	**※他者とつながる力** **・意思の伝わりやすい表現(思いやり・他者への敬意)** **※自己に向き合う力** **・助言を受け入れる謙虚さや柔軟性** これらがみられた時に「意識づけ」の声掛け＝この観点で**ほめる** **子どもにとって価値を共有したい大人となるように接する**

5分 展開 2	4）隣の人と作品を交流しあう 　自分の作品を読み聞かせ合い、下の項目について伝え合う ・良いところとその理由 ・頭に浮かんだ絵を言葉で表現 ・作品がもっと面白くなる工夫のアドバイス ・わからないところ 5）交流後、自分の作品を修正 ※修正しない場合もあり	◎残り10分になったら、いったん執筆をやめさせて5分間隣の人と交流させる。交流の際のポイントは左の４項目であることを伝える（時間がない場合は省く） ◎机間指導 　非認知能力を発揮しているところを褒め、価値づけする	**◎他者理解力** **・助言を受け入れる謙虚さ** **・他者への敬意**
8分 まとめ	1）振り返りとその共有 執筆・交流したことを通して気づいたことを発表しあう ＜以下例＞ ・音を感じさせるのに苦労した ・できないと思っていたけど、あきらめずに取組んだら完成させることができた ・台詞だけで場面絵が浮かんだ ・聴く人が楽しめるように工夫されていた ・想像することがたのしかった	◎作品をいったん提出させる 　ここまでできなくても、次の時間の最初の10分間、執筆時間を与えることを伝えておく。 ・期限までに書く努力は必要だが、早く書けるのが良いこととは限らない。**じっくり取り組むことで作品がより良くなる場合も**ある ◎気づいたことを共有させる ・伝えたい人に挙手をさせて発表させる ◎次回以降の授業を予告しておく ①自分の作品の再点検（10分） ②発表（指導者が朗読） ③振り返り（10分）	◎気づきと価値を共有 **発言、行動の質に着目** **・非認知能力の見立て** **※自己を高める力** **※他者とつながる力** **※自己と向き合う力** **・これらに関わる発言等をほめる**

※こころのひとことシート：
　朝の短学活時、個人で身の回りの出来事で印象に残ったことをスピーチさせる際に、事前に話を組み立てるために時・場・人物・心に残った台詞（一言）を整理するためのシート。

＜板書計画＞

ねばり強く取り組み、
小さな物語の台本をつくろう。
物語とは？
・出来事の流れの中で人物が変わる。
・山場がある。

作品例

書き方のルール
①登場人物は二人
②起承転結を意識（主人公が変容する）。
③台詞だけで伝わるように工夫（説明書き[ト書き]は書かない）。
④擬音なども書かない。台詞の中で音を感じさせる表現を工夫する。
⑤必ず四百字原稿用紙の最後の行で終わる。

振り返り
（共有した気づきを書く）

資料１（低中高学年用）作品例

のこり一このおかし

弟　おやつ食べよ。
僕　うん食べよ。
弟　あっ、一つしかない。
僕　あちゃー。
弟　オーマイガー。
僕　どうしよう。
弟　しょうがないよ。
僕　うん。
弟　あっ。
僕　どうした？
弟　じゃあこうしよう。
僕　なんだよ？
弟　ゆずるよ。
僕　えっ、いいの？
弟　うん。
僕　でも。
弟　いいよあげる。
僕　いいよ。
弟　いいの？
僕　うん。

資料２（中高学年用）作品例

題名　**黒板の中**

花　えっ……黒板にあながある。
空　ほんとうだ！　ちょっとだけ、手入れてみる。
花　気をつけて。
空　わぁっー。
花　だいじょうぶ？
空　うん……出るね。
花　うん。
空　あれ？　出られない。
花　ええー？　ちょっと押してみるね。
空　うん。
花　わぁっ、あいた。
空　ありがとう！　やっと出られる。
花　先生が来る！
空　あれ？　あなが、ない。
花　ほんとだ！　いつのまに？
空　まぁいいんじゃない？
花　そうだね。
空　あっ、朝のじゅんび。
花　あっ、忘れてた。

資料３（高学年用）作品例

サプライズ

友　宿題終わった？
緑　なんで？　明日運動会やんか。
友　あほやなあ、天気予報見てないの？
緑　もしかして……。
友　そう。大雨やで。
緑　どうしよう。学校に全部置いてきたわ。
友　山中先生に演技の後、サプライズすることばかり考えてるからやで。
緑　もうええわ、宿題いさぎよくおこられよ。
友　学校に取りに行けへんの？
緑　ん？　まだパフォーマンス、私のパートの動き、完成してないやん。
友　それはそうやけど……あ、おれが取りに行ったるわ。
緑　あっ、行っちゃった。……一人で練習か。
友　緑！
緑　え？　どうしたん？　傘いるの？
友　ほら、これ。郵便受けに入ってたで。
緑　なんやこの袋……。あっ私の宿題！
友　がんばれよって書いてる。山中先生や！

第２時～第３時

時間	学習内容・学習活動 予想される児童(生徒)の反応	指導上の留意点（◎） 理解のための支援(☆)、促し(・)	非認知能力への働きかけ
☆前時でまだ執筆中の児童があれば、時間を決め作品を完成させる。下はその後の展開例（第２時途中からを想定）			
５分		準備：◎事前に提出された作品を読んでおき、学習が深まるように発表順を工夫しておく	
	めあて:みんながつくった小さな物語を鑑賞し、良いところや気づきを交流しよう		
導入	◎本日学ぶことを確認	◎本日学ぶことを確認させる ・今日はみなさんがつくったオリジナルの物語・演劇の台本を朗読します	態度の質に着目
	◎朗読を聞くときのポイントを確認	◎朗読を聞くときのポイントを確認させる ①時はいつごろか(季節・朝昼夜など) ②場はどこかわかるか ③場面が絵になって頭の中に浮かぶか（動きがわかるか) ④山場はあるか。 ⑤何がどのように変わるか。	**・他者への敬意の大切さを意識**
	◎進め方の確認をする ・一つ一つの作品は、作者が勇気を出して表現したもの。作者の気持ちになって大切にする。静かに耳を傾ける ・作品の朗読を終えたら作者へ敬意をこめて拍手をする ・作品の発表後、「作者の人」と指導者が尋ねる。その時に手を挙げて名乗り出ることも手を挙げないことも自由 ・名乗り出たときにはさらに惜しみない拍手をする	・一人一人が精いっぱいの努力で、伝えようと思って表現したものです。その気持ちにこたえるような姿勢で、心を込めて聴きましょう ・ここからは、心を込めて受けとめる、「鑑賞」の授業になります	

30分 ～ 50分 展開	１）朗読・発表を聴く ２）感想や気づきを発表する	◎作品を指導者が朗読する （回を重ねる中で作者とペアでの朗読も可能） ◎発表の際には、作者名は読まない。発表後に、「作者の人？」と聞き、**名乗り出たい人が主体的に挙手できるようにする** ◎各作品朗読直後に、**適宜**の下の発問をする ・作品の**感想や良いところ、気づいたこと**を発表してください ・特に、**書き方の工夫で気づいたこと**を教えてください ※以上を短時間で行う **◎発言について、非認知能力に関する発信があった場合、価値づけしてほめる**	・発言の質に着目 ・非認知能力の見立て **※他者とつながる力** **意思の伝わりやすい発信** **（他者への敬意）** ・子ども自身の、他者の非認知能力を見立てる力に関する発言があった場合、その視点をほめる ↓ 「意識づけ」の声掛け
☆人数によって第２時中には終わらず、第３時に発表がわたる。 第３時までわたる場合は、振り返りから逆算して展開を工夫する。			
10分 まとめ	１）振り返りの共有 鑑賞したことを通して気づいたことを発表しあう ・次回の取組に活かす意思表明 ・他者の表現の巧みさを評価する視点など ２）アンケートへ解答する	◎本日の鑑賞を通して気づいたことを発表させる ◎まとめを共有させる ◎アンケートへ解答させる※	◎気づきとそれらの価値を共有 **※自己を高める力** **※他者とつながる力** に関わる発言をほめる **子どもにとって価値を共有したい大人になるように振舞う**

※アンケートは、学校の教育目標に基づいた、学級で育てたい資質・能力の伸長を振り返り、自身の非認知能力のよさを確認できる項目を意図して用意する。

(6)補足

この指導は各学期に一度、継続実施するものであり、２回目はペアで朗読・発表する形式をとり、３回目は３つの設定から一つを選んで創作する。